

外務大臣殿

社団法人 シャンティ国際ボランティア会
会長 松永 然道

平成 15 年度国際開発協力関係民間
公益団体補助事業完了報告書

平成 15 年 10 月 7 日付第 258 号をもって補助金の交付決定を受けた標記の事業が完了したので、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第 14 条前段の規定により、関係書類を添え、下記のとおり報告します。

記

1. 補助事業の名称
6. 地域産業向上事業 (2) 青少年職業訓練計画事業
2. 補助金の交付決定額及びその精算額 (別紙のとおり)
3. 補助事業の実施期間
平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日
4. 補助事業の成果 (別紙のとおり)

以上

(社) シャンティ国際ボランティア会ブノンペン事務所
2003年度(平成15年度)地域産業向上事業(青少年職業訓練計画事業)
概要報告書

1. 事業対象地

カンボジア王国ブノンペン市 日本カンボジア友好職業訓練センター
(バントラバエク中学・高校内)

2. 事業概要

(目的)

青少年を対象とする職業・技術訓練教育の機会の不足を緩和する。

青少年の生計手段の不足を緩和する。

職業・技術訓練教育の質的向上を促進する。

(内容)

ブノンペン市教育局管轄の「日本カンボジア友好職業訓練センター」において、中学・高校生及び一般青少年を対象とした職業・技術訓練教育(縫製、木工、電子、電気、オフセット印刷、シルクスクリーン印刷)を実施する。

教育局管轄の職業訓練教育施設における青少年対象の職業・技術訓練教育の質的向上を促進する。うち、SVAにおいては縫製・洋裁および電子コースを支援した。

3. 事業の成果概要

No.	コース名	対象者	受講者	開始	終了
1	縫製・洋裁	女子中高生	200名	2002年10月1日 (2002年度からの継続)	2003年7月30日
2	縫製・洋裁	女子中高生	200名	2003年10月1日	2004年7月30日 を予定
3	縫製・洋裁 (第22期)	一般青少年	25名	2003年1月8日 (2002年度からの継続)	2003年4月10日
4	縫製・洋裁 (第23期)	一般青少年	36名	2003年9月1日	2003年12月12日
5	電子	男子中高生	200名	2002年10月1日 (2002年度からの継続)	2003年7月30日
6	電子	男子中高生	200名	2003年10月1日	2004年7月30日 を予定
7	電子	一般青少年	20名	2003年1月2日 (2002年度からの継続)	2003年6月17日
8	電子	一般青少年	20名	2003年7月1日	2003年12月5日

4. 実施状況報告

本訓練センターはプノンペン市教育局管轄で、1992年に大規模な施設改修を行い現在に至っている。訓練コースは、センターが高校内に位置していることから、一般青少年対象のコースと、中高生を対象とするコースに分けられる。中高生を対象とするコースは、技術家庭科（生活科）に準ずるもので、理論と技術（実際）に分けてカリキュラムが組まれている。1993年以降、教育省では訓練教育の標準カリキュラムの必要性を認めているものの、カンボジア全国の中高生対象の技術訓練を実施できる施設や教官の不足から、各訓練校は自主的に作成したカリキュラムで学級が運営されているのが現状で、本訓練センターも独自のものを利用している。

なお、当会からの財政支援は2003年12月で終了し、カンボジア国内で他に先駆けて自立採算型の職業訓練センターとして、運営に当たっている。本訓練センターは自立採算にむけて、有料での訓練枠を設置している。

1) 縫製・洋裁コース

カンボジア国内の縫製産業での雇用が促進している今日、縫製・洋裁コースは、特に女性には人気のコースである。

中高生対象のコースでは、同じ敷地内のバントラバエク中高校7,8,10,11年生の女子生徒計1,235名を対象に実施、1週間2時間、1年間の訓練を提供した。コースを終了した生徒は、ハンカチ、バッグ、シャツ、ズボンの縫製ができる技術を身につけた。

一般青少年対象のコースでは、1日4時間、計1週間20時間、3ヶ月の訓練を提供した。その結果、個人で洋裁の仕事を開業する、縫製工場に就職する、本訓練センターの作業員として就職する等、技術習得と併せて生計手段を得ることができた生徒が多い。本コースを終了すると、さらに技術を磨くための、工業縫製コース(1年)も用意されており、本年度は工業縫製コースで146名が技術を習得した。

2) 電子コース

電子コースは、特に男性に人気がある。

中高生対象のコースでは、縫製・洋裁コースと同様、バントラバエク中高校7,8,10,11年生の男子生徒計704名を対象に実施、1週間2時間、1年間の訓練を提供した。対象者が女子生徒より少ない理由は、男子生徒は他に木工・電気コースがあり、どれか一つ選択することになっているからである。本コースを終了した生徒は、電子機械のしくみや基礎技術を習得することができた。

一般青少年対象のコースでは、1日4時間、計1週間20時間、5ヶ月の訓練を提供した。訓練の結果、基礎技術のみならず各種電気・電子機器の修理の技術を身に付けることができた。電子・電気修理店への就職、個人での開業等、技術習得と併せて生計手段を得ることができた生徒もいる。

特に、本年度はJICAシニア・ボランティアが配属され、カリキュラムの見直しやより充実した訓練を行なうことが可能となった。

以上